

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**○ **《生活指導の充実・基本的な生活習慣の定着》**

5つのとりくみ(「あいさつ」「時間」「服装」「言葉づかい」「清掃」)の習慣を自主的に発揮できるように、さまざまな場面で生徒へ意識させている。特に、「時間を守ること」への意識向上について、クラス、学年、学校全体へと促してきた結果、全校集会のスムーズな開始、チャイム着席の定着など、学校全体としての意識は高まってきている。また、毎月、全学年一斉に遅刻指導日を設定し、遅刻の多い生徒への指導とともに、遅刻連絡カードを利用した保護者への協力要請を継続していることで、遅刻指導の対象生徒数は多い時で全学年6～7名程度である。しかし、中には、本人の生活習慣の乱れ、家庭環境の不備などによる遅刻の常習化等、改善が困難な生徒が一部にみられるため、今後も基本的な生活習慣の定着に向けて実施する。

また、昨年度の校内調査における「学校の決まり(校則)を守る」という項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と肯定的に答えた生徒は2年生が92%、3年生が97%で、目標値の90%に達している。上級生になれば高い数値を示しているが、1年生については84%と他学年より低く改善しなければならない点である。

さらに、H28年度→H29年度で示すと、暴力行為は3件→4件、と増加しているが、全ての事案に対して適切に指導を行い解消している。不登校生徒については22名→25名と増加しているが、課題に向けて引き続き、保護者および関係諸機関(子相・区役所・SSW等)との連携を強化していく。

○ **《防災・減災教育の充実》**

防災訓練は、毎年、地震・津波を想定した訓練と火災を想定した訓練を実施している。また、土曜授業では2年生で消防署・地域と連携した防災訓練を実施している。職員には防災計画や防災冊子を配布するとともに緊急対応の方法を周知し、生徒には防災冊子や資料をもとに防災学習を通して防災意識を高めた。AEDを使った救急救命研修も実施した。昨年度の学校評価アンケートの「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかかわっている」の肯定的回答が全体で88%に達し、前年度より3%上昇した。1年79%、2年91%、3年95%と学年が上がるにつれ割合は高くなっているが、全学年が目標値の90%を達成できるよう方策を改善する。

○ **《人権教育の充実》**

「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」と「人権の大切さについて十分に学んでいる」の肯定的回答は全学年とも、85%以上であった。「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的回答は全学年とも85%以上であった。「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」の肯定的回答は目標の85%に届かなかったが、平和学習会で『現代の戦争』について学び、1学年のフィールドワーク、2学年の職場体験、3学年の妊婦体験と進路学習など、各学年の総合的学習の取組の他、家庭科オープン講座『乳幼児ふれあい体験(ピョピョクラブ)』を行うなど、多様な取組を行うことができた。

○ **《道徳教育の充実》**

「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」の教職員の肯定的回答は88%であった。目標の90%には届かなかったが、今年度も学年教員によるローテーション方式を取り入れ、全教員が道徳の授業を行うことができた。「道徳授業の工夫・改善に努める」の教職員の肯定的回答は94%であった。今年度は私たちの道徳や副読本のあかつきに掲載されている読

み物教材だけではなく、様々な読み物資料やグループ活動を通して、各教員が道徳授業を工夫することができた。

○ 《自尊感情・自己有用感の育成》

学校評価アンケート（生徒）より「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について、肯定的に回答した割合は1年 60%、2年 75%、3年 75%であった。「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目については、1年 87%、2年 90%、3年 96%、「自分にはよいところがあると思う」の項目については、1年 73%、2年 68%、3年 93%という結果であった。

学校での教育活動としては、2年生による地域清掃、職場体験、土曜授業での防災訓練、乳幼児ふれあい体験、図書館開館等の学校元気アップ事業による活動等が関連している。また、地域行事の際、地域住民として自らボランティア活動に参加したりなど、地域貢献している生徒も多く見られる。地域の人々と連携して活動することで、地域住民としての自覚をもたせるとともに、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めさせる活動が今後も大切である。地域との連携によりボランティア活動の推進を図ったり、小中連携・地域連携による地域行事参加や音楽コンサートを実施することで、人と人との交流を通して心豊かな青少年の健全育成を目ざしている。全学年が 90%以上になるように今後、取組をすすめていきたい。

○ 《家庭学習の習慣化》

昨年度の学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は、3年生は指標の 75%以上を達成できたが、1・2年生は達成できなかった。今年度以降は、家庭学習の重要性をしっかりと教え、家庭学習の方法を身に付けさせる手立てを企てていく必要がある。

○ 《主体的・対話的で深い学びをめざした「わかる・楽しい授業」の創造》

授業に関しては、昨年度の生徒の学校評価アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合は、2・3年は指標の 85%以上であった。保護者の学校評価アンケートの「学校は、子どもたちの学力充実のために努力工夫をしている」の肯定的評価の割合は、全学年 70%以上であったが指標の 85%には到達しなかった。目標に到達するために「わかる授業」の実現のために努力していくことは必要不可欠である。

○ 《健康な生活・体力の向上》

昨年度の健康な生活アンケートで「意識して健康な生活をしている」については、肯定的回答の割合が全学年、男女とも 53%~68%にとどまり依然低い数値である。様々な機会を通して、情報提供や啓発活動を行わなければならない。平成 29 年全国体力・運動能力、運動習慣調査結果より、男女ともに課題であった全身持久力を示す 20Mシャトルランについては、昨年度→今年度を示すと、男子 75.16→80.75(+5.59)、女子 53.01→53.73(+0.72)とアップした。

○ 《開かれた学校の構築》

学校評価アンケート(保護者)の「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」という項目で、1年 93%、2年 82%、3年 87%であった。通信やホームページ等で情報を提供しているが、中には保護者に連絡が届いていないケースもしばしばあり、できるなら配付プリントを全てホームページに掲載してほしいという要望もある。ホームページの有効活用についての見直しと改善が必要である。

○ 《言語力や表現力、論理的思考能力の育成》

言語力や表現力、論理的思考能力の育成をねらいとして、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定している。その一つに言語活動・表現活動に関する各種コンクールへの参加や出品を、夏期

休業中の課題にし、生徒がいくつかの課題から自ら選択して取り組めるよう工夫した。平成 29 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数について、平成 28 年度よりも参加数は約 1500 名から約 1900 名に増加するとともに、参加部門数も新しく 10 部門増加した。特に国語科、社会科、美術科では、昨年と同様に多くの生徒が参加することができた。各種検定についても参加募集や案内ポスターを掲示して奨励し、漢検は校内でも 2 回実施した。また、それらのポスターを見て自発的に作品を提出する生徒も出てくるようになってきた。

教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒にすすめることや、全校集会等で表彰し H P でも披露することで、年々、生徒の関心意欲の向上や言語活動の充実が図られている。

H28・29 年度の参加状況等については次の通りである。

# 検定・各種コンクール・コンテスト・発表等の結果について

内容項目・タイトル		H28 年度	入賞者数	H29 年度	入賞者数
英語検定		28 名		76 名	
漢字検定		82 名	41 名合格	97 名	
税の作文		3 年全員	8 名入賞 (代表で朗読1名)	3 年全員	6 名入賞 (代表で朗読1名)
税の標語		3 年全員	1 名 入賞	3 年全員	優秀賞 2 名(3 年)
読売新聞主催作文コンクール		1 年 1 名	1 名 優秀賞	16 名 / 16 名	
JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト★				3 名	
田辺聖子文学館ジュニア文学賞★				5 名 / 8 名	
人権啓発詩・読書感想文★				76 名	
学芸サイエンスコンクール★	書道部門	10 名 / 390 名		10 名 / 358 名	
	小説部門			2 名 / 3 名	
	詩部門			2 名 / 5 名	
	読書感想文部門			3 名 / 3 名	
	作文部門			1 名 / 11 名	
わたしたちのくらしと生命保険 作文コンクール		1・2 年 36 名	1 名 佳作	21 名 / 23 名	
交通安全ファミリー作文コンクール		42 名		17 名 / 20 名	
手紙作文コンクール	はがき部門	1 年 20 名	1 名 佳作	5 名 / 21 名	
	絵手紙部門	2 年 120 名	2 年参加賞	20 名 / 20 名	
第 49 回手紙作文 コンクール		1 年 20 名 2 年 120 名	1 名入賞 佳作 2 年参加賞		
“社会を明るくする運動”作文		1 年 7 名	参加賞	7 名 / 12 名	
思わず笑顔になる文章コンテスト★				4 名 / 7 名	
河野裕子短歌賞★				20 名 / 23 名	入賞 2 名(2 年)・ 入選 2 名(2 年) 最優秀校受賞
青少年読書感想文全国コンクール		1 年全員		53 名	
人権啓発キャッチコピー		2 年全員	4 名入賞	1・2 年全員 3 年有志 2 名	優秀賞 1 名(2 年) 佳作 3 名(2 年)
私の折々のことばコンテスト★				4 名 / 18 名	
全国小・中学校作文コンクール (読売新聞社)				55 名 / 74 名	佳作 1 名(1 年)
青春俳句★				3 年全員	
産経ジュニア書道コンクール (自主応募)				1 名(1 年)	中学生以下ジュニア賞 受賞1名(1 年)
全日本小・中学生書道紙上展				1 名	入選 1 名(2 年) 準ベスト 50
人権啓発標語					
絵画・写真コンクール 《絵画の部》		46 名	1 名 佳作	83 名	最優秀賞 1 名(2 年) 特別賞 1 名(2 年)
大阪市読書感想画コンクール		8 名	1 名入賞	8 名	優良賞 1 名(2 年)
読書感想画中央コンクール		1 年 1 名	入選		
大阪成蹊アート&コンペティション		3 年 1 名	1 名 銀賞	3 名	銅賞 1 名(2 年)
ワールドトーク★				2 名(2 年)	
生徒理科学研究発表★				1 名(1 年)	佳作 1 名(1 年)
大阪市中学校放送コンテスト新人大会★				4 名(2 年)	
中国語弁論大会参加		2・3 年 2 名	1 名 優秀賞		
日本・スイス青少年交流使節団派遣選抜		3 年 1 名	1 名		
適切なネット利用対策実践事例コンクール		生徒会	佳作		

## 2 学校運営の中期目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の決まり（校則）を守っている」について肯定的回答の割合を 95%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 95%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C Tを活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
- 平成 33 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 95%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 85%以上にする。

### 【その他】

- 平成 33 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。

### 3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

##### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

##### 学校園の年度目標

- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳・人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 70% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

##### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の

考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。

#### **学校園の年度目標**

- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C Tを活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 30 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 85%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80%以上にする。

#### **【その他】**

平成 30 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

全市共通目標（小・中学校）

- ☐
- ☐
- ☐
- ☐

学校園の年度目標

- ☐
- ☐
- ☐
- ☐
- ☐
- ☐

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

全市共通目標（小・中学校）

- ☐
- ☐
- ☐
- ☐

学校園の年度目標

- ☐
- ☐
- ☐
- ☐
- ☐
- ☐

**【その他】**

- ☐



## 大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</li> <li>○ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 80%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 80%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 70%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 90%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・暴力行為の被害の未然防止・早期発見・早期対応に向け、「いじめアンケート」「被害調査」を実施する。 (マネジメント改革関連)</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめアンケート」は各学期末（年3回）、「被害調査」は2・3学期初め（年2回）実施し、生活指導上の諸問題（いじめ・問題行動等）の件数を前年度より減少させる。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関・地域と連携した防災・減災教育、防犯教育を実施し、安全を守るための力を育成する。 (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、防災、防犯についての取り組みを年間3回実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内美化を図り、情操面や安全面で落ち着いて安心できる教育環境を整備する。 (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート（生徒・保護者）で「校内美化や環境整備ができている」の項目について全学年80%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業時間を確保し、年間指導計画に基づいて様々な内容項目の資料や読み物を活用して授業を進め、教員間で情報交換する。 (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間35時間の道徳授業を実施し、指導案を保存する。</li> <li>・道徳教育の充実に向けて、年間5回の道徳教育委員会を開催する。</li> </ul>	
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者学習を通して、障がいについて考え、障がい者の人権について正しく理解し、共に生活していくための社会づくりについて学ぶ。 (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の前後に生徒アンケートを実施し、「障がいについて理解できている」という肯定的回答の割合を85%以上にする。（未実施）</li> </ul>	
<p>取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の伝統文化や芸術鑑賞の機会を設定し、芸術に親しみ伝統や文化を大切にする豊かな心を育成する。 (マネジメント改革関連)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞会後のアンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を80%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事での演奏や小中合同での音楽コンサート等を実施し、地域の人々との交流を図り、自尊感情や自己有用感を育成する。 (学校サポート改革関連)</li> </ul>	B

指標	
・地域行事での演奏数を昨年度の6回から増やす。	
取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】	B
・ホームページや学年だよりで、学校の状況を平日は毎日公開する。 (ガバナンス改革関連)	
指標	
・ホームページの閲覧数を平均120件以上にする。	
取組内容⑨【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】	B
・地域ボランティアや学校図書館補助員と連携し、学校図書館の機能を「読書センター」及び「学習センター」としてさらに高め、学校図書館の活性化を図る。 (学校サポート改革関連)	
指標	
・学校図書館の利用者を平成29年度より増やし、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙より「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を、全国平均以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について	
① 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 各学期末に「いじめ調査」をおこない、また長期休業後の学期初めに「被害調査」を実施することで被害を早期に発見でき、迅速な対応をおこなうことができている。	
② 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 6月に地震津波想定した避難訓練を実施した。その際、防災パンフレットを生徒全員に配布した。1学期の行事として3年で薬物乱用・非行防止教室（警察と連携）2学期の行事として2年で防災訓練（消防署と連携）、1年で防災教室（区役所と連携）を行った。	
③ 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 正門付近の植栽や池の清掃整備を行った。また、校庭の桜付近の植栽や池についても整備を進めていく。	
④ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 35時間には達していないものの、各学年で情報を共有しながら計画的に道徳授業に取り組んでいる。今後もこれまで通りに道徳授業を進めていく予定である。	
⑤ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 3学期に実施予定である。	
⑥ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞会は、音楽・伝統芸能・演劇を1サイクルに、3年間でいずれかを鑑賞できる体制を推進している。今年度は伝統芸能部門より、落語鑑賞を実施した。実施団体を教務部視聴覚担当でいくつか厳選して実施に至った。生徒たちはプロの落語を鑑賞することやワークショップ体験を味わうことができた。 今後も選定する段階で、生徒にとって有意義な鑑賞会になるよう十分に吟味することが重要である。	
⑦ 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 天候の状況や部活動行事と地域行事が重複していたことで、今年度は実施できていない。また、小中合同音楽発表会についても各学校で日程調整ができないため、今年度は未実施ということになった。来年度以降は、前年度から打合せを行い、例年通り実施す	

る方向ですすめる。

⑧ 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

ホームページについては、平日は必ず更新し、日々の閲覧数も平均 150 件以上に達している。

⑨ 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

学校図書館利用者数を平成 29 年度との比較でみると下記のとおりである。

開館日数は変わらないが昼休みは 181 名減少、放課後は 219 名減少している。

自主学習できる学習ブースは人気があり、平日の放課後に学習に活用する生徒も多い。学習センターとしての環境も徐々に整備されてきた。

	平成 29 年度			平成 30 年度		
	昼休み	放課後	月計	昼休み	放課後	月計
4 月	126	38	164	107	44	151
5 月	329	278	607	348	118	466
6 月	309	291	600	299	217	516
7 月	113	134	247	123	145	268
8 月	57	42	99	22	51	73
9 月	341	76	417	182	65	247
計	1275	859	2134	1081	640	1721
開館日数	69 日	91 日		69 日	92 日	

今後への改善点

- ① 学期初めに「被害調査」、各学期末に「いじめ調査」を実施し被害を早期に発見し迅速な対応をする。また、教育相談や日頃から生徒とコミュニケーションをとることで生徒達が安全で安心して登校できる環境をつくる。
- ② 地震や台風による災害を体験し、今後実際に大規模災害が起こった時を想定して、保護者への引き渡し方法等も含め、避難訓練も実施していかなければならない。
- ③ 創立 60 周年の記念事業の一環で整備した庭園や池の周囲の植物を育て、春には花が咲き、緑が潤う憩いの場所となるようさらに整備していく。
- ④ 後期の道徳授業の時間を確保し、次年度から特別の教科として、情報の共有化を図り、評価の規準を道徳委員会で示していく。
- ⑤ 3 学期に実施予定である。
- ⑥ 今後も同様に教務部視聴覚で生徒の実態に合ったものを提供していく。
- ⑦ 創立 60 周年記念式典での演奏は好評を得た。「敬老会」で高台地域の人々との交流会、大阪マラソンでの沿道応援演奏を予定しているので、今後も期待できる。音楽を通して心を通わせ、やりきることによって自己有用感・自尊感情を高めさせていく。
- ⑧ 今後も日々の生徒の活動や地域行事を中心に学校日記に掲載したり、保護者へのお知らせプリント等もアップしたり、必要な情報を集めてホームページを活用する。
- ⑨ 図書館を活用する生徒が限られてきたので、さらに文化委員会の活動や図書だより、ビブリオバトルの活動を全校に紹介する等、読書活動の楽しさを広めることが必要である。「おはなし会」は今後も継続させる。後期に向けて、図書館の利用を促し、読書活動をさらに多くの生徒にすすめていく工夫や活動が必要である。

大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。</li> <li>○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。</li> <li>○ 平成 30 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</li> <li>○ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C Tを活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 平成平成 30 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 85%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用プリント教材を用意する等、家庭学習が定着するように工夫する。</li> <li>・教科会等で連携を取り、習熟度授業、ティームティーチングを充実させる。</li> <li>・土曜授業参観等で保護者のアンケートを取り、授業の研鑽を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革関連）</p>	B

指標	・平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。 ・実施した習熟度授業、ティームティーチングの時間数を、全授業時間数の 3 分の 1 を超えるようにする。 ・土曜授業参観でのアンケートについて肯定的回答の割合を 70%以上にする。	
取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】	・ I C T 機器を活用し、分かりやすく工夫した授業を充実させる。 ・ 情報教育委員会を中心に、 I C T の活用状況を月毎に報告し、特にタブレット端末を活用する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標	・ I C T 機器を活用した授業を、全教科で実施し、 I C T 機器の授業等活用例について校内研修を年間 3 回実施する。	
取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】	・ 保健体育の授業に全身持久力を高める運動を取り入れ、継続する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標	・ 保健体育の授業の中で毎回筋力トレーニングを実施する。	
取組内容④【施策 8 健康や体力を保持増進する力の育成】	・ 保健だよりや掲示物などを通じて、意識して健康な生活をするように情報提供や啓発活動を行う。 (マネジメント改革関連)	B
指標	・ 校内の健康な生活アンケートの全項目において、年度末の肯定的回答の割合を年度当初より上昇させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について		
① 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】		
・ 家庭学習の定着に関しては、ここ数年の本校の重要課題のひとつである。全国学力・学習調査の生徒質問紙の家で、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答の割合は 37・5%で全国平均より 14.6%、府平均より 10.4%下回っている。「家で、学校の予習・復習をしていますか」の肯定的回答の割合は 31%で、全国平均より 24.2%、府平均より 14.5%下回っている。しかし、「家で、学校の宿題をしていますか」の肯定的回答は 88%と高い数値が出ている。学校から出された宿題は家で行っているため、今後も家庭学習用の課題を出すとともに、家庭と連携を取って、家庭学習の定着を図る必要がある。		
・ 習熟度別少人数授業やティームティーチング授業は教科によっては、十分な時間数を確保できていないので、今後、計画的に習熟度別少人数授業やティームティーチング授業を実施していく必要がある。		
・ 土曜授業参観の保護者のアンケートは今後実施する予定である。		
② 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】		
教科の授業のみならず、学活でもタブレットを積極的に使用している。今年度はタブレット教室を配備し、タブレットのさらなる活用をしやすいような環境を整えた。また、教師だけでなく、I C T 係を発足し、トラブル対応などができるよう定期的な情報交換も行っている。		

③ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

授業の始めにランニングを取り入れ、また準備運動後に腕立て伏せや腹筋運動、背筋運動などの補強運動を取り入れることにより、筋持久力アップにつなげている。

④ 【施策8 健康や体力を保持増進する力の育成】

健康への興味、関心を高め、より良い生活習慣への意欲や行動力へつながるよう保健だよりを毎月発行したり、身近な健康課題を取りあげた掲示物を掲示したりしている。

1学期の健康な生活アンケートの結果、「3食食べている」は全体の約79%で、「きちんと手洗いを行っている」は男子が約60%、女子が約67%と低い結果であった。

健康な生活習慣を身につけることができるよう引き続き啓発していく必要がある。

定期健康診断の結果、受診票を発行したが、受診率は現在、耳鼻科 29.6%、眼科 51.2%、歯科 13.3%、視力 24.9%にとどまっている。受診率向上のための取り組みが必要である。

今後への改善点

- ① 授業で学習したことを繰り返し学習ができ、基礎的・基本的な学力が身に付くよう、また次のステップにつながるよう家庭学習の課題を工夫する。また、習熟度別少人数授業やT Tの授業が有効に実施されるよう教員同士の打合せ会を充実させ、教材や指導方法を共有していく。
- ② タブレット活用に関して、今後もICT支援員さんによる授業補助を支援していただき、多くの教員が授業でタブレットを使用した協働学習ができるよう校内研修を実施する。
- ③ 今後も単に筋力トレーニングだけでなく体幹から鍛えていくトレーニングを取り入れる。
- ④ 毎月発行する「保健だより」を継続し、身近な健康課題を取りあげた掲示物も工夫する。ホームページも活用し、季節に応じた記事を作成して啓発活動を行う。また、保健委員を積極的に活動させ、日ごろから健康について意識を高めるよう取組を工夫する。

大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【その他】</b> ○ 平成 30 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】 ・言語活動に関する各種取り組みの成果や案内等の情報を伝え、積極的に参加させる。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 ・平成 30 年度の学校外のコンクールおよび作品募集や各種検定等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【取組内容】について</b> ① 【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】 言語活動に関する各種コンクールの参加・出品については、教科の授業で取り組んだり、夏期休業中の課題として設定した課題から生徒が選択して自由に自ら取り組めるよう工夫した。 入賞結果はこれからであるが、入賞者等についてはHPや全校集会等でも紹介し、このような外部のコンクール等の機会を活用し自主的に取り組ませることで、生徒の関心・意欲・態度を高め、言語力や表現力、論理的思考能力の育成を図っていく。 現在のところ参加状況等については次の通りである。
今後への改善点
今後も継続して、思考力・判断力・表現力の育成および言語力の向上を重視し、学校外の各種コンクールや大会、作品応募等を活用し、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定する。現在中心となっている国語科、社会科、美術科、人権教育担当以外の教員も協力し、生徒への課題設定の仕方を工夫するとともに参加・応募を奨励し、全教科・領域の授業および行事等、教育活動のあらゆる場面で言語活動の充実を図る実践をすすめていく。